

**授業概要**

留学生対象のクラス（全4回の第1回）。人間文化学科に所属する5人の教員が「日本語・日本事情」をテーマに、それぞれの専門分野（古典文学、メディア、言語、近現代史、古代・中世史）に即して留学生向けに講義する。日本文化の理解を深めたい留学生も、日本語の力を養いたい留学生も、ぜひ履修してほしい。

**授業計画**

第1回	松浦 ガイダンス、最近気になる日本語
第2回	松浦 (1) 日本語の若者言葉—SNSとコミュニケーション—
第3回	越野 (1) 古代東アジアと日本文学の誕生
第4回	越野 (2) 現代語で読む古典文学（竹取物語）
第5回	松浦 (2) 日本語のレトリック—修辞技法からみた日本語—
第6回	柴台 (1) 日本のポピュラー音楽産業—市場規模と流行現象—
第7回	柴台 (2) 日本の音楽文化①—祭りと盆踊り—
第8回	松浦 (3) 日本語の比喩—日本人の文化的発想を考える—
第9回	松浦 (4) ポップカルチャーにおける日本語—アニメ・マンガ・歌詞の日本語表現—
第10回	福島 (1) 日本近代の特質①—日本の近代を概観する
第11回	福島 (2) 日本近代の特質②—明治日本の知恵を探る
第12回	松浦 (5) 日本語のオノマトペ—音と感覚のイメージ—
第13回	井上 (1) 天皇の基礎知識
第14回	井上 (2) 令和の皇位継承
第15回	松浦 (6) まとめ
第16回	レポート試験

**到達目標**

- ・日本文化を理解するのに必要な日本語の「読む」「書く」「話す」「聞く」能力を身につけることができる。
- ・日本文化（歴史、文学、言語、メディア）について幅広く関心を持ち基本的なことについて理解することができる。

**履修上の注意**

留学生対象のクラスである。授業に積極的に参加し、遅刻や欠席をしないようにすること。担当者ごとに20点満点で採点するので、全7回の担当者なら1回3点弱相当、全2回の担当者なら1回10点相当の価値があるという計算になるため注意すること。

**予習・復習**

シラバスに記載されたキーワードについて調べておくことが予習になる。また、各担当者の指示に従って課題を提出したりすることが復習になる。

**評価方法**

5人の担当者がそれぞれの担当回で評価し（20点満点）、それらを単純に合計して全体評価とする。評価する項目は、授業態度、課題、レポート課題などがあるが、担当者によって異なる。期末筆記試験は実施しない。レポート課題が課される場合、担当者ごとに提出の方法や期限について指示する。

**テキスト**

統一テキストは使用しない。教材は各担当者が授業内で配付する。